

## 福井大学学術協定校への派遣留学（交換留学）月例報告書（10月分）

留学先：マラヤ大学（マレーシア）

氏名：安江 詠星

### 【目次】

- ・はじめに
- ・授業について
  - 授業の内容
  - 履修登録について
  - 単位交換について（不可能説/言い訳/予防策/提案）
- ・ルームメイトとの衝突
- ・日本語ボランティアについて
- ・国際地域学部一期生東南アジア会合 in クアラルンプール
- ・ホームステイプログラムに参加しました
- ・おわりに

### 【はじめに】

こんにちはマレーシアのマラヤ大学に留学中の安江です。留学をはじめて二ヶ月が経ち、この10月は生活にも慣れ、そしていくつかの困難が起き、心が折れる回数が多かった月でした。今回の報告書は大きく3つのパートに別れています。1つは前半、授業について、今現在履修している授業や履修登録、単位交換について述べています。2つ目は生活編と題し、ひたすらルームメイトと衝突したことについて述べています。そこでは異文化理解と空間支配の難しさを知りました。ちなみに未だに根本的な解決にはなっていません。3つ目はボランティア活動について、国際地域学部の同期と会ったことについて、ホームステイプログラムに参加したことについて述べています。先月と比べて何故か文字数とページ数が多く、ほぼ私事についての報告になりますが、今回もいずれマラヤ大学に留学する予定の人読むことを考えて一般化した内容になるように頑張ります。もしマラヤ大学への留学を考えている方がこれを読んでいれば、是非僕の屍を越えていってください。

### 【授業について】

今月は授業編ということで自分がマラヤ大学で履修している授業について紹介していこうと思います。自分が最終的に履修登録をした授業は以下の4つです。

- ・ Politics and Government in South East Asia
- ・ Chinese Culture in South East Asia
- ・ Ethnicity, Identity, and Political Minorities in South East Asia

・ Malaysian Economy (※)

後ほど説明しますが4つ目の授業は自分に合わなさすぎて途中で行くのを辞めました。今現在3つの授業に出席しています。3つといっても各授業に講義で2時間分、チュートリアルというプレゼンやディスカッションを行う授業が1時間分あり、また授業によってそれらが連続しているものや何日かで分散しているものがあるので、結果的に月曜から木曜まで何かしらの授業があるというスケジュールになっています。空きコマの時間は寮に帰るのが面倒なので（片道ハイキング20分、バスは30分に1本）ほとんど図書館で課題か予習か読書か昼寝をして過ごしています。教室の場所は、学部ごとに建物が別れていて、違う学部同士歩いて行き来が出来るものもありますが、かなり離れている学部もあります。僕の場合は Arts and Social Science（人文科学系）と Economics の学部なので、これらと図書館はお互いに歩いて5、6分の距離にあるので行き来は楽です。次に取っている授業をそれぞれ簡単に紹介したいと思います。

・ Government and Politics in South East Asia

「東南アジアにおける政治」といったところでしょうか。毎週東南アジア各国の政治についての概要や歴史を学ぶ授業です。内容は基礎的なものが多く、正直 Wikipedia やネットで少し検索すれば学べる内容になっており他の国からの留学生は退屈だとよく言っていますが、僕にとってはそれらについて学べる良い機会となっています。知らなければそもそも検索することもなかった、ということです。

・ Chinese Culture in South East Asia

「東南アジアにおける中国文化」という授業です。マレーシアをはじめ、東南アジア各国には中華系の人が多く住んでいます。ブミプトラ政策というマレー人優遇政策があるにも関わらず中華系の人を経済的な成功をつかんでいるマレーシア、そのブミプトラ政策の反発から独立に至ったシンガポール、人口数はマレーシアと変わらないが割合的にはマイノリティであり、虐殺されたりや同質化政策が進められてきたインドネシアなど、近隣の国であつても彼らを取り巻く状況は各国で大きく異なります。そんな東南アジアでの中華系の人達の歴史や彼らに関わる教育、政治、ビジネスの状況を学ぶ、という授業です。

・ Ethnicity, Identity, and Political Minorities in South East Asia

東南アジアにおけるマイノリティに関しての授業です。一言でマイノリティ（少数派であるが故に生活や人権が虐げられている人々）といっても人種的、宗教的など多くの複雑な要因が重なっており、その問題の解決は困難を極め、今現在でも紛争や迫害が続いているケースが多くあります。この授業ではそれらについて学んでいきます。かなり重いテーマではありますが東南アジアを学ぶ以上避けてはならないところだと思ったので履修しました。講

義内容には不満はありませんが、何故かグループでプレゼンを前日指名されたりトピックが前日に出たりと雑すぎる宿題の出し方とキャパオーバーなことが頻発し、後に心が折れる原因となりました。先生のオーラのためか何故か先生と話すときの僕の声は毎回震えています。

#### ・ Malaysian Economy (※)

文字通りマレーシア経済についての授業です。しかしそれを学びたいと思って履修したのですが講義を殆どせず、プレゼン等の課題ばかり出されるような授業でした。ローカルの生徒とランダムで毎回チームを作るのですが、なかなかプレゼンのディスカッションは進まず、そして僕自身もトピックに関してあまりにも知識不足で、(指摘されてもそれを教えてもらいたかったから履修したのというジレンマ) ストレスがたまる一方だったので、この授業に悩む時間を別のことに使おうと判断し、履修登録は終わって4週間ほど出席しましたが授業に行くことをやめました。ローカルの生徒はおそらく基礎知識として知っている反面、留学生である僕はほとんど知りませんでした。またトピック決めや構成も直前に彼らが決めるため、僕としては全体像を把握できないままやらなければいけないというかなりストレスフルな状況が毎週あったため、心が折れた案件第二弾でした。

さて、今期履修している授業は以上の3つです。偶然ですが、自分が今取っている授業には全て”South East Asia”という単語が入っています。そもそも自分がマレーシアに来た理由が東南アジアについて勉強するということだったので、政治、マイノリティという社会問題、中華系、経済(辞めましたが)、という違った視点から学ぼうと思いこれらの授業を履修しました。文系の科目には決まった正解はありませんし、理論も人や時代によって変わりますが、自分が今いる国がどのような歴史のもとに成り立っており、現在どのような状況にあるのかを分析するのは、当たり前ですが重要なことだと考えています。

#### 【単位交換ほぼ不可能説・履修登録と授業開始までの流れ】

ところで、国際地域学部の交換留学において、単位交換は重要な要素になります。しかし正直なところ僕は今期では単位交換はほぼ絶望的な状況です。もちろん交換をするつもりではありましたが様々な要因が重なり難しくなっていました。ここではこの状況に至るまでの言い訳を列挙してまいりますのでマラヤ大学に留学を予定している方がいれば、どうか同じ轍を踏まないようにしてください。

#### ・履修登録について

マラヤ大学の場合、履修する科目の申請を、留学自体の申請とほぼ同時かその直後に行います。留学する時期にもよりますが、他の留学先の大学と比べてかなり早い段階で単位交換も含めた履修を決めなければなりません。秋留学の場合、4月頃だったと思います。申請後、

抽選を経て自分が申請した科目の履修を認可されたかがわかります。正確な時間は覚えていませんが数ヶ月掛かった記憶があります。その時点でいくつか単位交換を考えていた科目が落ちている可能性があります。またマラヤ大学に到着後、改めてオンラインシステムを使って正式な履修登録をします（福井大学でのウェブクラスのようなものを使います。）その際に初めて何かしらの都合で開講されない科目がわかり、時間割を検索する方法を教えてくださいるので、時間帯やテスト日程（授業内ではなく別日で行われます）が重なっている授業もわかり、ここでまたいくつかの授業の履修を諦めることとなります。（時間割検索システムについてはマラヤ大学に留学を考えている方であれば予め知っておいた方が良いでしょうと思うので福大の国際課にお問い合わせください。しかしながら時間割確定の時期は不明です。）

#### ・履修登録後の変更・キャンセルについて

履修登録後の追加や変更はもちろん可能ですが、かなり面倒な手続き（物理）を行わないといけません。キャンセルする分はマラヤ大学の International Student Center（通称 ISC、留学生の事務関係は全てここで言うこととなります）の窓口でサインをするだけですが、「事前に登録はしていないが追加で履修したい科目」については直接学部の窓口に行かなければならず、つまりそれは到着して間もない、生徒もまばらで学内バスも走っていない時期に広大なマラヤ大学の敷地の中をマレー語の案内版を頼りながらさまようことを意味します。ただ一方で、運が良ければ窓口で自分が落ちた科目に定員が空いたことを知り、結果履修することが出来るというパターンもあります。しかし僕の場合は単位交換に関しての授業は定員オーバーや開講していないというパターンだったので、当初単位交換を考えていた授業はほぼ全て履修することはできませんでした。ちなみにですが今まで述べた到着後の履修の手続きについては誰かが細かく教えてくれるわけでもガイドブックがあるわけでもありません。チューターは親切で、もちろん聞けば教えてくれますが、そもそも手続きの全体像を把握しないと質問が出来ないため、自分で状況を整理したり日本人学生で情報を共有したり、やっと理解をして初めて質問ができるという少し混乱した状況でした。この時に全体像と状況を理解することが留学において何よりも重要であると学びました。（そして大抵のストレスを感じる状況はこれに由来するものだと気付きました。）

#### 【言い訳整理】

ではここで改めて自分の単位交換が難しい原因を言い訳がましく整理して列挙させていただきます。

#### ・そもそも前例がないので何をどうすれば良いかわからない

留学体験や単位交換などの前情報が一切無い状況で、前もって留学先での単位の交換を考えて国際地域学部での履修を組むことが困難でした。また、履修登録第一弾をかなり早い

段階でしなければならなかったのも原因だったと思います。ちなみに授業の細かいシラバスは事前に見ることは出来ず概要文しか見ることは出来ません。

#### ・福井大学国際地域学部の科目数が少ない

完全に身内バッシングですが三年後期の時点で単位交換が出来る科目のバラエティ度が少なすぎました。留学先で受けたくもない授業を仕方なく受けるか、好きな科目を留学先で受けるために福井大学で興味が少ない授業ばかり受けるといった解決策はありますが結果的に自分はそれをしませんでした（この状況を予想して福井大学の履修をしなかった自分の能力不足の自覚は有り。）

#### ・抽選落ち、未開講、時間の重複で履修不可など予測できないことが多発

いくつか希望の授業がとれない、ということ自体は予想できましたがどの授業になるのかは不明でした。あと思ったより履修できない授業が多かったです。半分以上が消えました。

#### 【予防策】

落ち込んでばかりはいられないので、再発防止策をいずれ留学するかもしれない後輩と自分の次セメスターのために考えてみます。

#### ・福井大学で単位交換しやすい授業を予めあけておく

→これができれば全て解決です。しかし未来を見通せる優秀な能力と、何が単位交換しやすい科目なのかを見極めるリサーチ能力が求められます。具体的には万国共通で開講されている一般教養的な授業を見分け、履修をしないことです。

#### ・留学先で出来るだけ「交換出来そうな単位」の授業をとる

→1つめの逆パターンです。理論上は可能ですが気持ち上不可能でした。

以上、予防策を考えてみましたが少し難しいなと思いました。単位交換をするということは、「福井大学のカリキュラムにある、似たような授業を留学先で履修して交換する」ということです。結果論にはなりますが、今僕がこちらで履修しているものは、残念ながら東南アジアに関する授業は福井大学のカリキュラムには殆ど無いので単位交換はかなり難しいというわけです。ただ個人的な意見ですが、留学するということはそこでしか学べないことを学ぶことだと僕は考えるので、留学の大学選びや学びたいことの履修登録に関して先見の明があるか、福井大学に単位交換への慈悲がないと難しいと思いますので寛大で柔軟な措置を求めたいところです。（妥協しなかった自分が悪いという自覚は有り。）

## 【提案】

留学時期が早ければそれだけ交換可能な科目の種類も増えるということもありますが、やはり人によって時期は異なりますし留学する目的や意義も違うと思うので、こういうシステムがあれば今後単位交換がしやすくなるのでは、という提案を考えてみました。

### ・各留学先の大学のシラバスの初期の段階での共有

→シラバスがあれば開講時期も確認ができて最高ですが、せめて授業一覧を早い段階で見ることが出来れば1セメスター分くらいは単位交換を考慮し履修を組めると思います。また各留学先大学の履修登録の流れを予め把握することも重要だと思います。

### ・福井大学での単位交換しやすい科目をリストアップ

→「全世界どの大学にもありそうな授業の単位」のリスト化です。

### ・単位交換専門の科目・単位を用意

→「単位交換用の単位＝科目空白の単位」を設置してみるのはいかがでしょうか。学生が興味のある授業、その留学先でしかない授業の単位交換も実現可能です。

### ・授業よりもPBLでの単位交換などプロジェクトベースの単位交換を重視する

→留学先での単位交換は可能であればやる程度のもので、授業は学びたいものを学んでPBLでの単位交換を重視するといった大胆な方針転換。

以上が提案です。なるべく早く、交換留学での単位交換がより柔軟なものになってほしいと思います。留学先の大学や留学時期、福井大学での在籍年数によって状況は異なりますが、僕の場合、素直に福井大学とマラヤ大学のカリキュラムを比べても、単位交換がかなり難しいと思ったのが正直なところです。

(写真↓：唐突ですが今月のネコとサルです。左ネコは食事中のおねだり、真ん中ネコはそのまま動かずシュールだったので撮りました。サルは授業後教室を出ると遭遇し、しばらく見つめ合いました。)



### 【ルームメイトとの喧嘩】

さて話は大きく変わりました生活編です。マラヤ大学での寮は基本的に狭い二人部屋の共同生活です。つまり部屋に籠もることが大好きな自分にとってルームメイトとの何かしらの衝突は不可避なわけです。そもそも自分が共同生活に向いていないことは火を見るより明らかですが、一人部屋の費用がかなり高いこと、また今のルームメイトの前の短期で来ていた方々とは上手くやっていたことから、今さら状況を大きく変える事は不可能なわけです。僕は共同生活する上で最も大切なことは不干涉であり、お互いの生活に対して謙虚さと配慮を持って邪魔をしないことが一番重要であると考えています。だから普段、僕の方から騒音やスペース確保で相手の生活の邪魔をすることだけは出来るだけしないように心がけています。しかし残念ながら、自分の常識は世界の非常識、自分の当たり前とモットーグローバルで通用せず、何かとルームメイトとの衝突が多い月でした。部屋は狭く、机が横に連なっているのですが、その真横という距離感でルームメイトは割と大きめな声で電話をしたり外国語の発話の練習をしたりするので、さすがに我慢の限界となり話し合いを行い、練習する時間や電話は外で行うなどの決め事をしました。また、笑い方がうるさい、クチャクチャ口から音を立てて食事をする、くしゃみをするとき口で塞がない、キーボードをワープロみたいな古いタイプのものを使っているから異常にうるさいなど、僕自身もマナーがよくできている方ではなく、タイピングもうるさい方ですが、それでも少しずつストレスを感じざるを得ない寮生活になっています。異文化理解と空間支配と人の生活への不干涉の難しさを知った一ヶ月でした。ちなみに細かいマナーは相容れないことが多く、また人の物にケチをつけるのもなかなか言いづらいため今現在も全てが解決しているわけではありません。また、あちらはいつもへらへらしているのでおそらく衝突とは思っておらず、たまに色々もっと根本的なものを疑うこともあります。敢えて無視しています。

### 【子どもの日本語ボランティアに参加しています】

縁があってマレーシア在住の日本人児童やハーフの子どもたちと日本語を使って遊ぶというボランティアに参加しています。自分が参加する頻度は月に1,2度と高くはありませんが、前セメスターで福井市にいる外国人児童への日本語教育の調査をPBLとしてやったこともあり、楽しみながら、そしてこちらも学びながら参加しています。この活動を留学中のPBLに繋げるかはまだ決めていませんが唯一の男子のスタッフなので参加は続けていこうと思います。また、先月何故か偶然福井大学の桑原先生とマラヤ大学の図書館で会いました。そのときの縁でマラヤ大学にいる日本語の先生の方々を紹介してもらい、まだ全く何も決まっていますがマラヤ大で日本語を学んでいる学生達と日本人留学生との交流する企画が始まる予定です。他にも友達の子学生団体のイベントを手伝ったりしました。いくつかインターンシップなど学外での新しいことの話も進めています。



### 【国際地域学部東南アジア会合 in クアラルンプール】

10月の半ばにマレーシア、タイ、ベトナムと国際地域学部の東南アジアに留学している人たちで集まりました。宿泊場所として Airbnb という民泊サービスを使い、五人でシェアが出来る部屋を借りました。部屋には冷房、お湯が出るシャワー、ふかふかのベッドがあり、久しぶりに文明社会を感じる事が出来ました。みんなで観光名所に行ったり夜は飲み会をしたりと久しぶりに国際地域の雰囲気でも過ごせたのでリラックスができた3日間でした。11月にタイに行くのでまた開催されると思われれます。ちなみに下の写真の安江は現地で髪を切った直後であり。中国人に間違われる率が三倍になりました。500円カットでした。



### 【ホームステイプログラムに参加しました】

10月後半の週末にホームステイプログラムに参加しました。大学側の提供したプログラムだったので無料でした Johor という大学があるクアラルンプールからバスで四時間ほどのマレー半島東部のシンガポールに近いエリアに滞在しました。見渡す限りアブラヤシの（パーム油がとれる木）のかなりローカルな場所で、トイレの使い方が謎だったり移動がトラックもどきの荷台だったりという斬新な経験ができました。マレーシアのお菓子作りや小さなお菓子工場を訪ねたりしました。インドネシアの文化も色濃く残る場所であり、インドネシアのダンスを鑑賞しました。片言ではありますが英語が通じたのも印象的でした。ただ、とにかく暑かったです。





## 【おわりに】

今月はメンタル的に大変な月でした。有名な「異文化適応のU字曲線」のごとく、生活に慣れた矢先に多くの試練を感じ、ちょっと色々しんどくなるというものでした。トイレ臭い場所で冷水シャワーを浴びること（最近よく機械が壊れます）にはなんとも思わなくなりましたが、授業や課題の中で何をどうすればいかわからないキャパオーバーなことが毎週起きると大分ストレスを感じ、嫌になって授業を辞めたり休んだりもしました。日本と比べて課題の出し方がいい加減な事が多く、苛つくことも多いです。「ルールの教えられないままゲームをするのは苦痛でしかない」と、ある尊敬する知り合いの方が言っているのを見て、報告書内でも似たような表現を使いましたが、まさにその通りだと思いました。ですがとりあえず一緒に授業を受けている他の留学生に助けを求めたり、人に愚痴ったり、妥協や諦めをして最小限に被害を留めたり、なんとかやり過ごせています。自分が何を学びたかったのか、それに時間を費やすことは自分に取って良いのか、定期的に好きな映画を見て酒飲んで寝るとか、その試練は普遍的なものなのだと自分に問いかけ言い聞かせながら残り 8 ヶ月を過ごそうと思います。長文読んでいただきありがとうございます。来月はそろそろマレーシアグルメについてでも書こうと思います。